

機 関 名	農業試験場	課題コード	H270305	事業年度	H27 年度 ~ H31 年度
課 題 名	秋田ブランド化へ向けた花き栽培技術の開発				
機関長名	熊谷 譲	担当(班)名	花き担当		
連絡先		担当者名	間藤 正美		
政策コード	2	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略		
施策コード	1	施策名	“オール秋田”で取り組むブランド農業の拡大		
指標コード	6	施策の方向性	生産・消費現場と密着した試験研究の推進		
種 別	重点(事項名)	野菜・花きの省力高品質安定生産技術の開発			基盤
	研究	開発	○	試験	調査
	県単	○	国補	共同	受託
					その他
					その他

評 価 対 象 課 題 の 内 容

1 研究の目的・概要

花きの需要が全国的に低迷している中で、本県では行政施策の支援により、リンドウ及びダリアの生産急増が花き生産全体を底上げしている状況であり、花き産地の拡充のためには他の品目を含めてさらなる生産力の向上が求められている。

本県の花き重点品目であるキク、リンドウ及びダリアについて、生産技術の低コスト化、開花調節技術及び品質向上技術などを開発し、市場競争力の高い産地づくりに寄与する。

(1) 需要期集中出荷に向けた安定生産技術及び品質向上技術の開発

① キクの盆、秋彼岸需要期集中出荷に向けた開花調節技術の開発

② リンドウの障害花発生条件の解明

(2) 周年安定生産に向けた栽培技術の開発

① ダリアの冬期栽培技術の確立

② キクの冬期栽培技術の確立

(3) 切り花の日持ち性向上技術の開発

① ダリアの日持ち性を向上させる技術の開発

2 課題設定の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等)

(1) 花き市場からは、キク、リンドウにおいて盆・彼岸需要期に安定した定量出荷が、ダリア、キクにおいては周年的な定量出荷が求められている。

(2) キクでは、栽培期間中に遭遇する温度条件により開花期が不安定な品種が多く、盆、秋彼岸の需要期から出荷期がずれる問題がある。また、メガ団地などの大規模栽培体系では、一斉収穫による省力化のためにも開花調節技術は重要である。

(3) リンドウでは、花卉が着色不良となる障害花が発生する場合があります。高温遭遇が原因と思われるが詳細は明らかでない。リンドウの生産拡大に向けても発生要因の解明は急務である。

(4) ダリアの冬期栽培は加温が必要であり、NAMAHAダリアの周年生産に取り組むためには、低コスト化につながる効率的な加温方法の検討が急務である。また、寡日照条件下では生育が軟弱、徒長となり、花の大きさや花色が変動するなど、品質の低下が問題となっている。また、キクの冬期栽培では、省エネ低コスト生産技術対策が求められている。

(5) ダリアは、切り花として鑑賞期間が他の品目よりも短いため、需要の拡大や輸出を想定した場合に遠距離輸送に耐えうる日持ち性向上技術の開発が望まれている。

3 課題設定時の最終到達目標

① 研究の最終到達目標

- ・キクの盆、秋彼岸需要期集中出荷に向けた開花調節技術を確立する。
- ・リンドウの障害花の発生要因を解明し、品質向上対策を確立する。
- ・キク、ダリアの冬期栽培における変温管理方法及び補光方法を検討して、周年安定生産技術を確立する。
- ・ダリアの日持ち性を向上させる栽培技術及び鮮度保持技術を確立する。

② 研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度

キク: 受益対象栽培面積 102ha、受益対象生産者数 550名

リンドウ: 受益対象栽培面積 27ha、受益対象生産者数102名

ダリア: 受益対象栽培面積 4ha、受益対象生産者数 50名

- ・キク、リンドウに関しては、需要期に集中出荷することが可能となり、市場からの信用が得られ、ブランド産地育成に繋がる。
- ・ダリアについては、市場から要望の強い周年安定供給が可能となり、市場の認知度が高まり、ブランド産地育成に繋がる。
- ・ダリアの日持ち性向上技術の開発により、遠距離輸送や輸出が可能となり、出荷市場の拡大、生産量アップに繋がる県内花き生産農家。施設栽培における暖房費の低減により、農家経営の安定化に貢献できる。露地栽培では、需要期出荷に安定した生産量を確保できるため有利販売が可能になる。

4 全体計画及び財源 (全体計画において 計画 実績)								
実施内容	到達目標	27	28	29	30	31	(最終年度) 31年度	
		年度	年度	年度	年度	年度		
需要期集中出荷に向けた安定生産技術及び品質向上技術の開発	・キクは、開花調節技術を確立する。 ・リンドウは障害花の発生要因を解明し、品質向上対策を確立する							合計
周年安定生産に向けた栽培技術の開発	ダリア、キクの冬期栽培における変温管理方法、補光方法を確立する							
切り花の日持ち性向上技術の開発	施肥方法など栽培技術の確立、鮮度保持技術を確立する							
計画予算額(千円)		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200		6,000
当初予算額(千円)		1,000	750	600				2,350
財源内訳	一般財源	1,000	750	600				2,350
	国費							0
	その他							0

観点	
1 ニーズの状況変化	<p>○ A ● B ○ C ○ D</p> <p>・キク、リンドウなどは仏花として、生産者、市場及び消費者から気象条件に左右されず需要期に安定した定量出荷する技術の確立が、求められている。</p> <p>・県内では施策により、メガ団地などにおけるキクの生産が増加し、大規模栽培体系では、計画収穫のための開花調節技術の開発や機械化栽培体系の確立など省力化へのニーズがある。</p> <p>・周年園芸の普及拡大を目指す。キクの冬期出荷作型では、経営費に暖房コストの占める割合が大きく、近年の原油価格不安定化により、省エネ低コスト生産技術対策が求められている。ダリアは他の品目に対して比較的低温で管理できる周年栽培可能な品目であるが、寡日照条件下では、品質の低下が問題となっている。他産地との競合があるため、さらなる低コスト化および品質向上へ向けた栽培技術の確立へのニーズは高い。</p> <p>・ダリアは、輸出を含めた販路拡大を計画しているが、切り花として鑑賞期間が他品目よりも短いため、遠距離輸送に耐えうる日持ち性向上技術の開発へのニーズがある。</p> <p>(委員の意見)</p> <p>・キク類、リンドウの需要期に対応した集中出荷や品質確保、ダリアの遠距離輸送(輸出含む)に対応した日持ち向上技術など一定のニーズがある。</p> <hr/> <p>A. ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている C. ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている B. ニーズに大きな変動はない D. ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている</p>
2 効果	<p>● A ○ B ○ C ○ D</p> <p>・キク及びリンドウは、本県花き生産の主要品目であり、需要期の安定した定量出荷の確立は、農家経営の安定化に十分貢献できる。</p> <p>・キクは、本開花調節技術を利用することにより、機械等を用いた一斉収穫が可能になり、省力化できるため大規模経営の安定生産に貢献できる。</p> <p>・ダリア及びキクは冬期栽培技術の確立により、周年安定生産が可能となり、作付け面積が拡大し、生産者の収入アップが期待される。</p> <p>・ダリア切り花の日持ちが向上し、販路が拡大され、生産者の収入アップが期待される。</p> <p>(委員の意見)</p> <p>需要期における集中出荷、品質の安定化、日持ち向上技術はいずれも生産者の所得確保に直接結びつくものであるため、大きな効果が期待される。</p> <hr/> <p>A. 大きな効果が期待される C. 小さな効果が期待される B. 効果が期待される D. 効果はほとんど見込めない</p>

